

丸亀市地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和5年度)

丸亀市基礎データ

合併状況:平成17年3月に1市2町が合併

人口:108,116人(令和5年10月現在)

面積:11,183平方キロメートル

【本島町】

人口:257人(令和5年10月末現在)

面積:6.75平方キロメートル

丸亀市における主な公共交通概要

○鉄道・軌道 JR四国(予讃線)、高松琴平電気鉄道(琴平線)

○バス

(幹線)

・丸亀コミュニティバス

丸亀駅を起点とし、旧飯山町と旧綾歌町主要施設を經由し3路線で市内を運行するコミュニティバス

・島田・岡田線

NEWレオマワールド停留所、琴電岡田駅停留所、島田停留所で丸亀コミュニティバスとつながり、富熊西沖バス停留所で坂出綾川線と接続する。飯山町、綾歌町から坂出駅まで主に国道438号を走る民間事業路線

(フィーダー)

・丸亀コミュニティバス

丸亀駅を起点とし、2路線で市内を運行するコミュニティバス

・本島コミュニティバス

離島地域である本島地区を走行する自家用有償旅客運送

・広島コミュニティバス

離島地域である広島地区を走行する自家用有償旅客運送

・琴平線

琴平町と善通寺市、丸亀市を走る民間事業路線。

○航路

・本島汽船 : 丸亀～本島、丸亀～牛島

・備讃フェリー : 丸亀～広島、小手島、手島

・六口丸海運 : 本島～児島

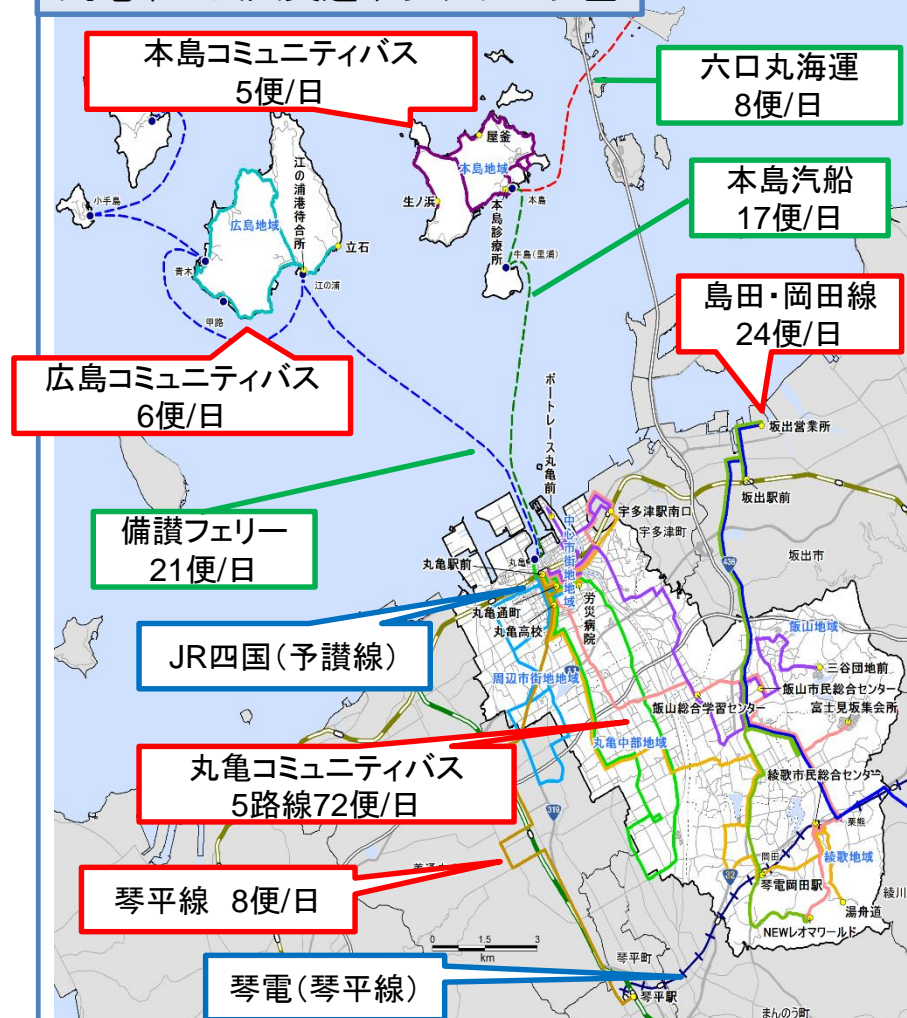
○タクシー

市内6事業者

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照(資料P10)

丸亀市の公共交通ネットワーク図



協議会の構成員

琴参バス(株) 丸亀タクシー組合 NPO法人石の里広島
本島汽船(株) 備讃フェリー(株) 高松琴平電気鉄道(株)
JR四国 丸亀市老人クラブ連合会
丸亀市身体障害者福祉連合協会
丸亀市コミュニティ協議会連合会
丸亀市民生委員児童委員協議会連合会 丸亀市観光協会
丸亀商工会議所 丸亀市PTA連絡協議会
学識経験者 公募委員
四国地方整備局 四国運輸局 香川県 丸亀警察署 丸亀市

前年度の事業評価における課題

(本島コミュニティバス)

移住促進や観光客誘致等島外からの利用者の増加につながる施策を検討していく。

(綾歌宇多津線・丸亀東線)

- ・地域の実情にあった運行ルート・バス停の位置の検討や利用者の意見を集約し利便性の向上に努める。
- ・バスの運行状況を確認できる「バスきよん？」の「利用者環境を改善するため、更なるアプリの機能拡張に努める。
- ・高齢者の運転免許返納の推進を図り、バスの利用者の拡大に努める。
- ・丸亀市地域公共交通計画に基づいた、持続可能な公共交通体系の構築を図る。

定量的な目標・効果

(本島コミュニティバス)

目標

利用者数を3,650人以上(令和3年度実績2,699人)とする。

効果

陸地部への公共交通ネットワークと連携することで、島民の通院、買い物などの交通手段となり、高齢者などの外出機会の確保・創出につながる。

また、交通空白地を少しでも減少でき、外出促進、地域活性化にもつながることが期待できる。

(綾歌宇多津線・丸亀東線)

目標

利用者数を綾歌宇多津線は42,160人以上(令和3年度実績32,399人)、丸亀東線は32,370人以上(令和3年度実績28,316人)とする。

効果

綾歌宇多津線、丸亀東線を維持することにより、学生や車を持たない高齢者の移動手段が確保される。また、幹線、支線のネットワークが連携することで、効率的に運行体系が確保される。

また、交通空白地を少しでも減少でき、外出促進、地域活性化にもつながることが期待できる。

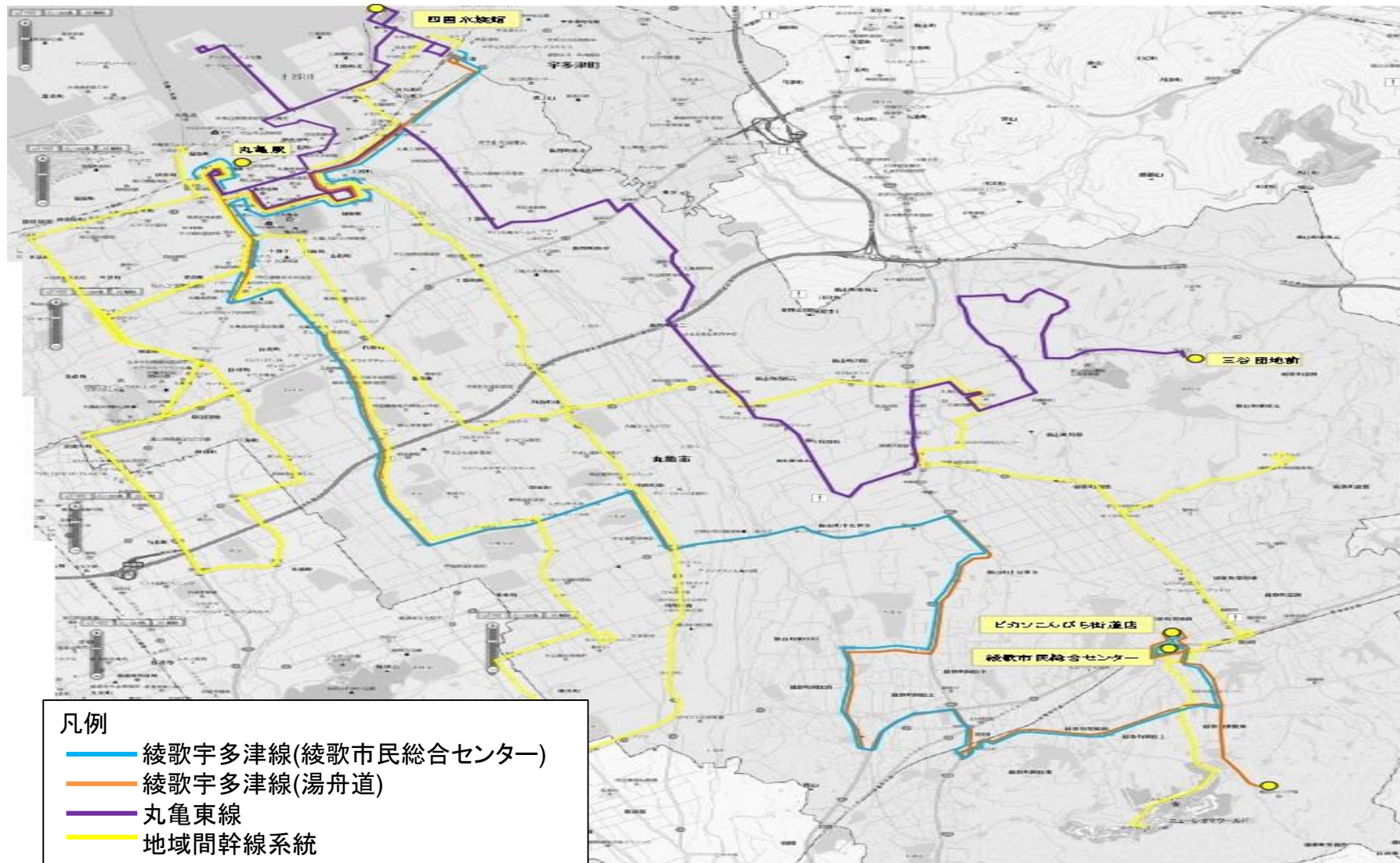
フィーダー系統図(本島コミュニティバス)



丸亀市地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和5年度)

フィーダー系統図(綾歌宇多津線・丸亀東線)



凡例

- 綾歌宇多津線(綾歌市民総合センター)
- 綾歌宇多津線(湯舟道)
- 丸亀東線
- 地域間幹線系統

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

(本島コミュニティバス)

- ・Google Mapでの路線検索で英語表記を追加し、来訪者の利便性向上を図った。
- ・75歳以上の高齢者の運賃無料キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図った。
- ・利用者の要望により、新たなバス停「山根」を追加し、また既設のバス停の位置を変更した。
- ・航路との接続に配慮したダイヤとしている。

(綾歌宇多津線・丸亀東線)

- ・商業施設への路線延長や乗り入れを実施し、利便性向上を図った。
- ・バスロケーションシステム「バスきよん？」の対応路線を琴参バスの全路線に拡大し、乗換検索など機能拡張に努めた。
- ・75歳以上の高齢者の運賃無料キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図った。
- ・市の広報誌などにバスの特集や情報を掲載し、利用促進を図った。
- ・幹線系統路線との接続については、乗換を考慮したダイヤとしている。

自己評価

事業実施の適切性

(本島コミュニティバス):A

- ・計画通り事業は適切に実施された。

(綾歌宇多津線・丸亀東線):A

- ・計画通り事業は適切に実施された。

「定量的な目標・効果」の達成状況

(本島コミュニティバス):A

- ・利用者数は目標の3,650人に対し、4,684人であり、目標に対して1,034人上回った。

(綾歌宇多津線):A

- ・利用者数は目標の42,160人に対し、46,691人であり、目標に対して4,531人上回った。

(丸亀東線):A

- ・利用者数は目標の32,370人に対し、44,077人であり、目標に対して11,707人上回った。

今後の事業に向けた改善点

(本島コミュニティバス)

・利用者の高齢化により、バリアフリーに配慮した車両や、航路との接続以外にも島民の生活にあったダイヤの設定について検討する。

・収支率向上に向け、ホームページやGTFSデータを活用した情報発信を行い来訪者の利用促進を図る。

(綾歌宇多津線・丸亀東線)

・バスロケーションシステムの乗降センサーを活用し路線運行の効率化を検討していきたい。

・GTFS-JPにてオープンデータ化に取り組み情報発信に努める。

その他PRポイント

・令和3年3月策定の「丸亀市地域公共交通計画」に掲げた各事業について、関係者とともに進捗管理を行いながら取り組む。